

茅ヶ崎セントラルクリニック 小田島 英明

功 績 協働による業務改善を推し進め、健育会グループ透析部門の連携強化に努めた事
推 薦 者 並木 乃輔
推 薦 理 由 健育会グループの職員としての使命感を実践し、「絆」=「和」を自ら実践した

内 容

熱川温泉病院より、透析に係る人材が技士1名であり、隔日週3回20名の透析治療を技士1人でまかっているおり、心身共に疲弊している為、技術・人員協力の要請がありました。

即座に花岡看護部長が熱川温泉病院へ訪問し、問題点の洗い出しを行い、短期での業務改善（技士の業務軽減、精神的負担の軽減、導線の集約、患者配置の工夫）が必要な事から、10年の経験を要し、穿刺技術も持ち合わせている、小田島副技師長の派遣を決定いたしました。

小田島副技師長の派遣と同時に西伊豆病院からも技士が派遣され、管理業務の効率化、茅ヶ崎CCの患者配置を導入したことで、動線の集約が図られた等の改善点が見られました。特に熱川温泉病院の土肥技士の精神的な負担が軽減された事により、患者さんとのコミュニケーションを重視し、安心して治療を受けられる環境作りを心がける余裕もうまれました。

経験年数も職場も違う職員が協働した事で、小田島副技師長も学ぶべきところが多々あり、「とても刺激になり、交流を図ることでグループの透析医療のレベルアップにつなげます。また観光透析等、お互いに患者紹介を推し進め、経営的面でも貢献したい」と報告を受けております。

両病院が上手く運営できるよう指示をだした花岡看護部長や快く長期の主張に応じてくれたクリニックの看護・技士職員にご協力をいただきましたが、面識のない職場に飛び込んで、グループ病院、患者さん、職員の為に業務に取り組んだ小田島副技師長は、まさしく「ブランドは人の和の証し」を身をもって示した事例とも言えると思います。